

岡崎市における 都市農業に関する取組み

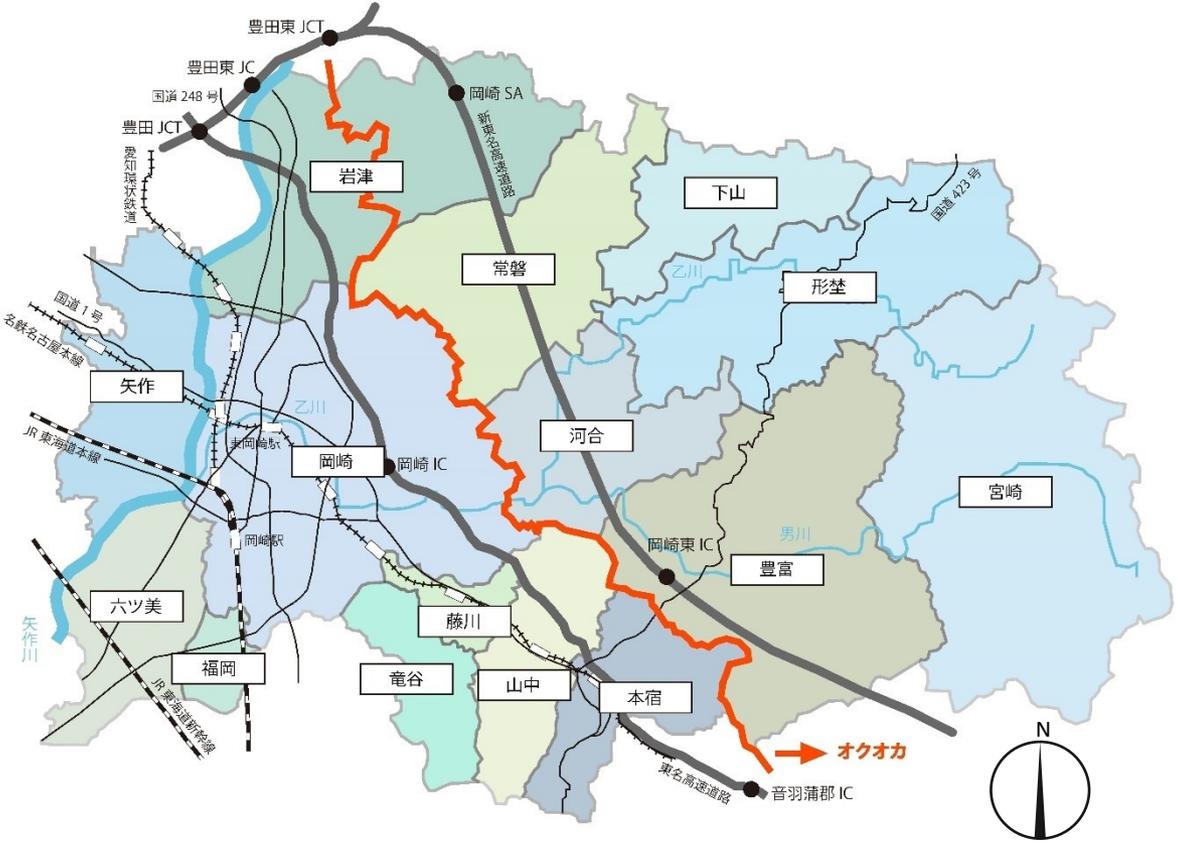


岡崎市経済振興部農務課

岡崎市の概要

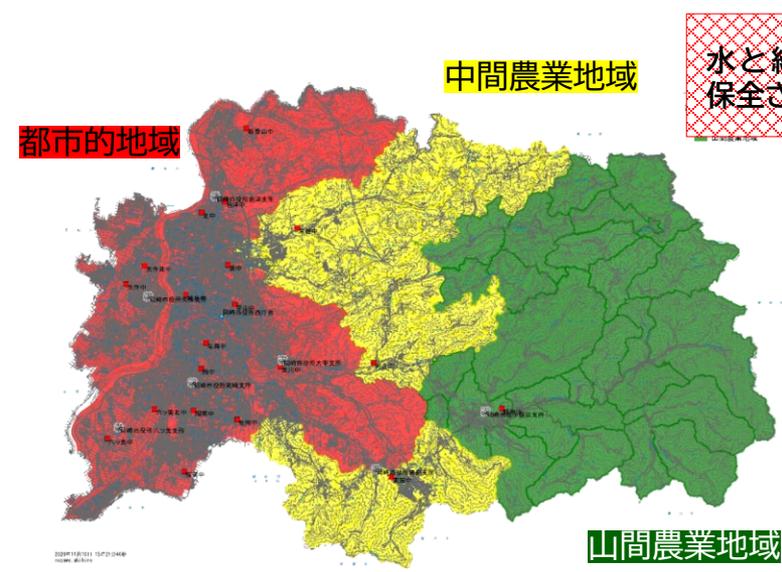
愛知県の中央部
(山地と平野接点)

- ・徳川家康の生誕地
- ・八丁味噌発祥の地



面積38,720 ha
人口約38万人

岡崎市の概要



営農類型図

水と緑・歴史と文化が
保全される市街地区域

水源環境機能を保全
し自然と交流するた
めの森林環境区域

優良農地と住環境が
調和した農住環境保
全区域

自然環境や優良農地
の保全を図り無秩序
な市街地化を抑制す
る自然環境保全区域

岡崎市土地利用基本計画における区域図



岡崎市の概要

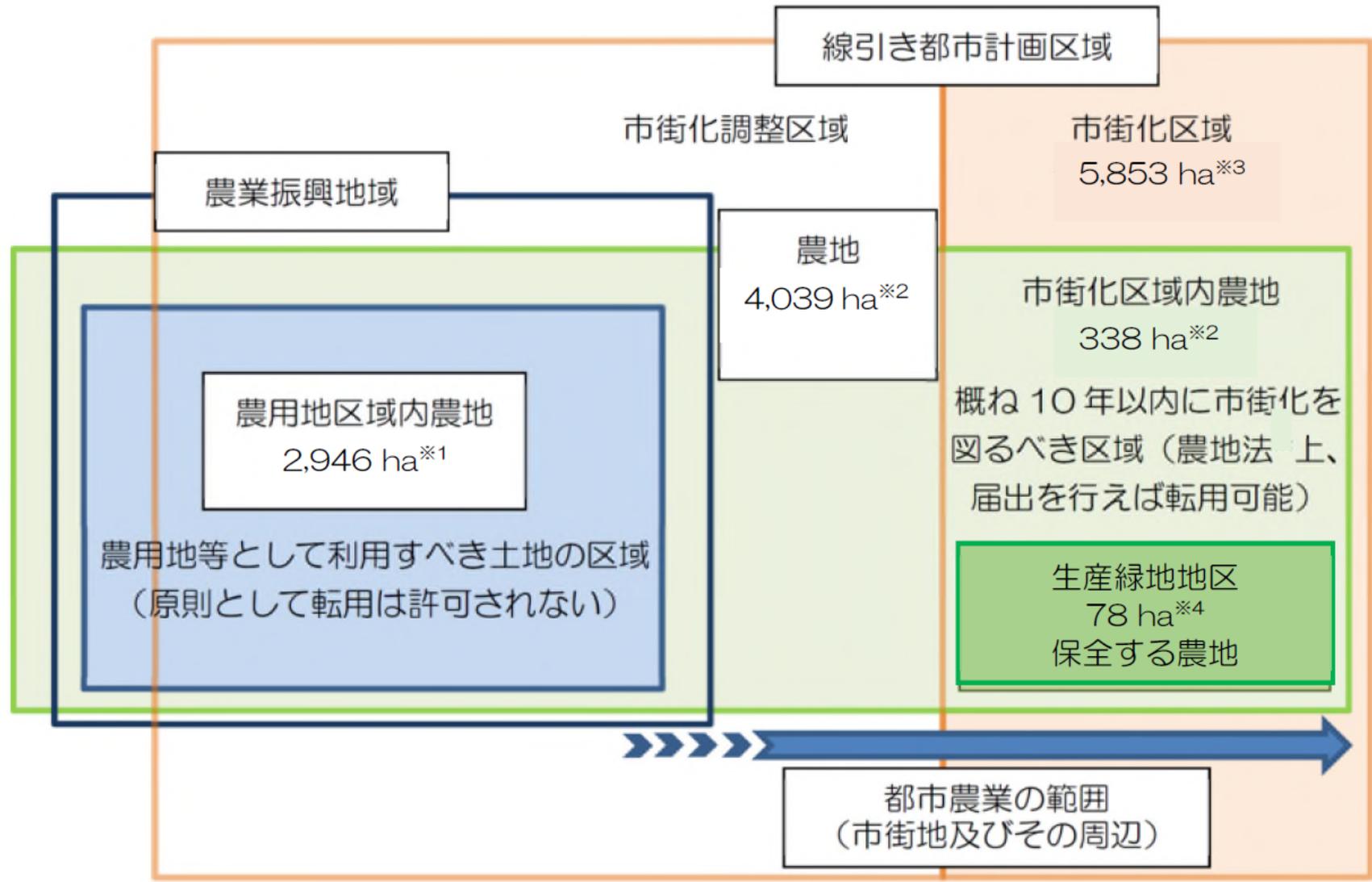
都市的地域
 米・麦・大豆・いちご・なす・豚・乳用牛 など

中山間地域
 米・ぶどう・じねんじよ・栗・鶏・肉用牛・茶・ゆず など



農業産出額		106.4 (億円)
①+②+③		
小計 ①		37.5
米		13.1
麦類		1.1
雑穀		0
豆類		0.8
耕種 いも類		0.2
野菜		13.7
果実		4.2
花き		X
工芸農産物		0.4
	茶	0.4
	その他作物	X
小計 ②		68.5
肉用牛		4
乳用牛		3.2
	生乳	2.9
畜産 豚		X
鶏		49.6
	鶏卵	49.5
	ブロイラー	-
	その他畜産物	X
加工農産物 ③		0.3

岡崎市の概要

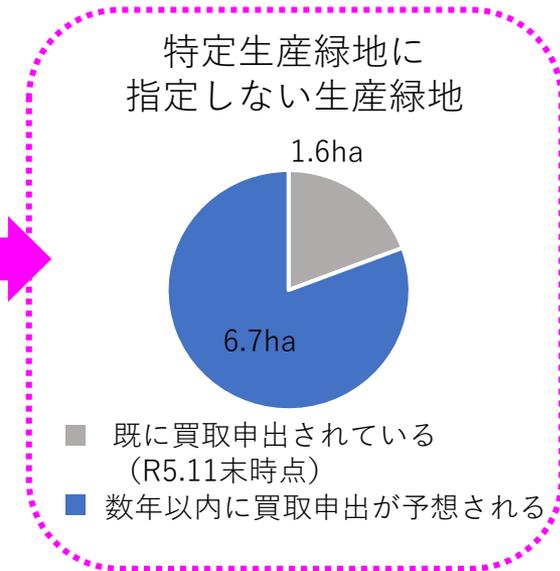
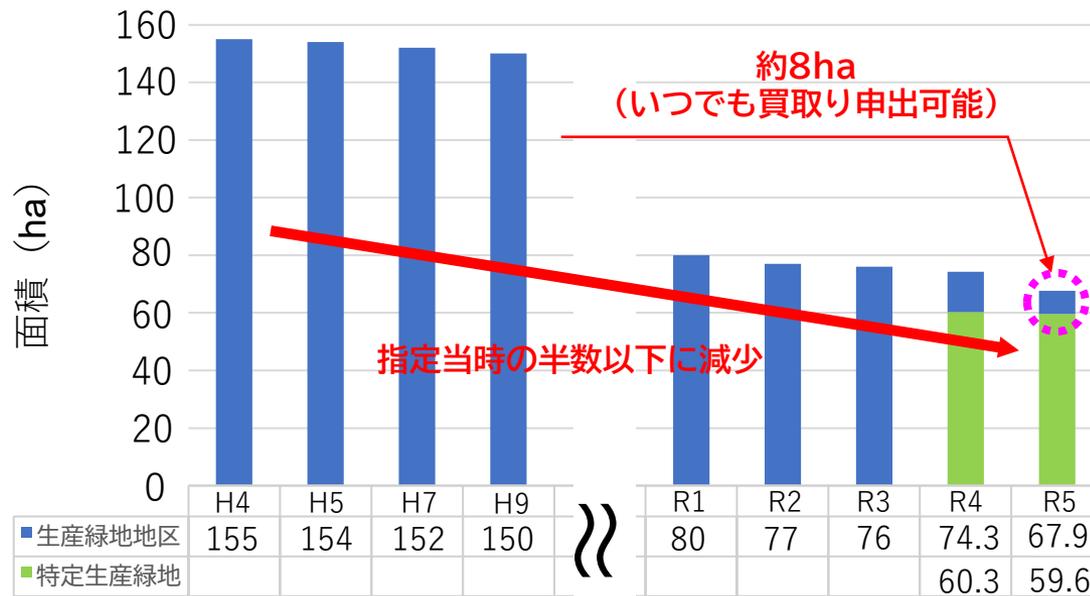


※1：農用地達成状況調査（市）R1.12
※3：県告示面積 H31.3

※2：農地台帳面積 R1.11
※4：市告示面積 R2.12
数字はすべて小数点第1位を四捨五入

生産緑地の現状

生産緑地地区の推移



本市の生産緑地地区は平成4年12月4日に都市計画決定で155haを指定したものの、毎年約2～3ha程度解除され、令和5年の都市計画変更では約68haと、指定当時の半数以下に減少している。

生産緑地地区やそれ以外の市街化区域内の農地等（以下、市街化農地とする）で構成される都市農地は、新鮮な農作物の供給だけでなく、防災空間の確保、良好な景観の形成、国土・環境の保全、農業体験の場の提供等、多様な機能の発揮が期待されている。このことから、都市農地は都市農業振興基本計画において、「宅地化すべきもの」から「あるべきもの」へと位置付けが大きく転換され、保全する必要があるものと明確に示された。

したがって、本市において減少傾向にある生産緑地地区について、都市農地が持つ多様な機能の観点から、追加指定を検討する必要性が生じている。

生産緑地・市街化農地を保全する計画

生産緑地地区や市街化農地を保全することについての関連計画

都市計画運用指針	生産緑地地区は、 <u>雨水の貯留浸透等のグリーンインフラとしての機能を有する農地等の保全や市街地の無秩序な拡大の抑制を図るために積極的に指定することが望ましい。</u>
岡崎市都市計画マスタープラン	特定生産緑地制度を積極的に活用するなどにより、 <u>生産緑地をグリーンインフラとして保全・活用を図っていく。</u> 自然環境が有する多様な機能を活用し <u>持続可能で魅力ある都市づくりを進めるため、都市農地をはじめとする市街化区域内の緑地の保全に努める。</u>
岡崎市立地適正化計画	生産緑地制度の活用による <u>都市内農地保全を行い潤いある環境づくりを進める。</u>
岡崎市農業振興ビジョン2030 (岡崎市都市農業振興計画)	都市農業の安定的な継続や多様な機能の発揮のため、 <u>計画的な都市農地の保全を図る生産緑地等の積極的な活用を促進し、都市農地の活用を複合的に組み合わせて、農と住の調和するまちづくりを目指す。</u>
岡崎市緑の基本計画	<u>緑化重点地区(※)内における貴重な緑地を生産緑地として可能な限り維持保全を行う。</u> 立地適正化計画の策定によりまちなか居住が積極的に推進される中で、 <u>より高密度化が進む市街地では良好な環境の確保、防災機能の確保、防災機能の維持といった緑のグリーンインフラ機能を十分に活用するため、緑化の取組みを推進する必要がある。</u> ※緑化重点地区(=居住誘導区域)



持続可能で魅力ある都市づくりを進めるため、グリーンインフラ機能を持つ都市農地を、生産緑地制度を活用して積極的に保全することが望ましい。

農業振興に関する計画

岡崎市農業振興ビジョン2030



岡崎市農業振興計画
岡崎市都市農業振興計画



令和3年3月

岡崎市



- ① 都市農業の農林産物を供給する機能の向上
- ② 都市農業の担い手の育成及び確保
- ③ 都市農業が有する多様な機能の発揮
- ④ 土地利用に関する計画等との整合
- ⑤ 都市農業により生産された農林産物の地元における消費の促進
- ⑥ 農作業を体験することができる環境の整備
- ⑦ 学校教育における農作業の体験の機会の充実
- ⑧ 市民の理解と関心の増進
- ⑨ 都市住民による農業に関する知識及び技術の習得の促進
- ⑩ 調査研究の推進

① 都市農業の農林産物を供給する機能の向上

🍆🍓 岡崎市内の産直施設 🌿🍇

のうゆうかん
おかざき農遊館



■利用時間/9:00~18:00(10月~3月は17:00まで)
 ■休業日/1/1~1/4
 ■問合せ/☎(0564)46-4700
 おかざきししがしあちわちょうあざのりこし ばんち
 〒444-2112 岡崎市東阿知和町字乗越12番地

おかざき
ふれあいドーム岡崎



■利用時間/9:00~18:00
 ■休業日/1/1~1/4
 ■問合せ/☎(0564)43-0123
 おかざきしもあおのちょうあざてんじん ばんち
 〒444-0244 岡崎市下青野町字天神77番地

みち えき ふじかわしゆく
道の駅 藤川宿



■利用時間/9:00~18:00(コンビニは24時間営業)
 ■休業日/年中無休
 ■問合せ/☎(0564)66-6031
 おかざきしふじかわちょうあざひがしおきた ばんち
 〒444-3523 岡崎市藤川町字東沖田44番地



おかざき農業
応援チケット
取扱登録店舗
2/29まで

おかざき農業応援
プロジェクト事務局
(岡崎市広野島和沢内)

使用可能施設はこの
のぼり旗とポスターが目印です

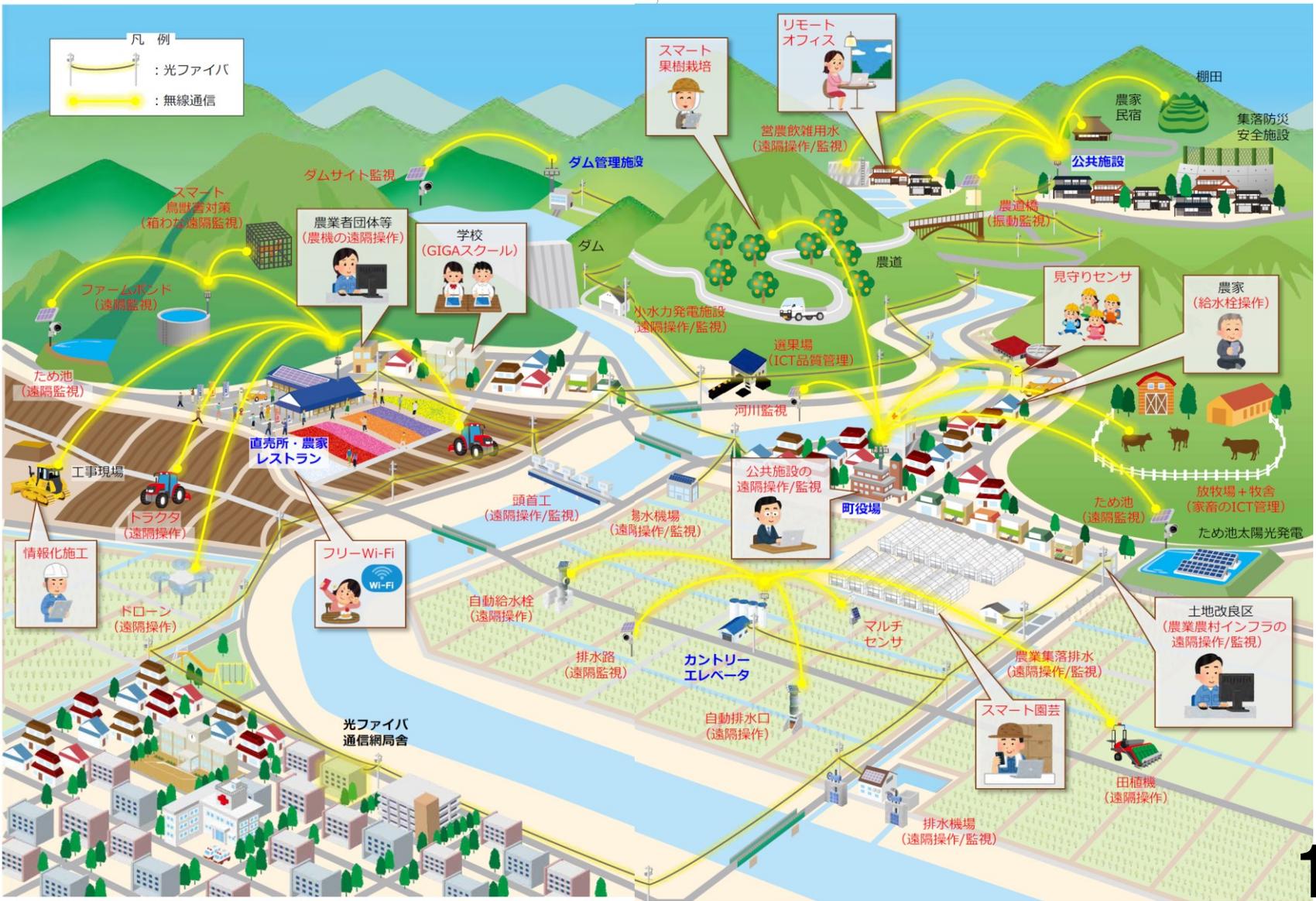


おかざき農業応援チケット
商品券
取扱登録店舗
500
令和6年
使用期限 2月29日(木)まで
0120-154-400

- ・物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用
- ・「おかざき農業応援チケット」とは令和5年9月1日現在に岡崎市に住民基本台帳のある方全員に1人1,500円分のチケットを配付
- ・使用可能店舗は産直等で30店舗以上
- ・使用率は82.5%
- ・令和6年度は「おこめ券」を予定

① 都市農業の農林産物を供給する機能の向上

情報通信環境整備対策



② 都市農業の担い手の育成及び確保

⑨ 都市住民による農業に関する知識及び技術の習得の促進

岡崎市農業支援センター

事業内容

平成22年4月から、それまでの「農業バイオセンター」の業務の見直しと同時に名称変更をおこない「農業支援センター」が誕生いたしました。
事業内容は、生産農家への優良種苗の安定供給を行う「生産農家支援」、農業塾などにより、農業への参入を適正に誘導する「新規就農支援」、農業を気軽に体験できる講座・教室などを開催する「ふれあい体験」の3つを柱に、本市の農業振興の拠点施設としての事業を実施します。

生産農家支援

観葉植物・ユリ・ラン・野菜などの優良種苗を大量増殖し、生産農家に安定供給を図ります。



人工気象器による順化・育成(観葉植物)



加温室での鉢あげ(サツマイモ苗)

新規就農支援(農業塾)

「農業を楽しみたい」、「少し本格的に農業をやってみたい」、「栽培技術を学びたい」という市民の方を対象に、基本的な野菜づくり、土作りや施肥設計、病害虫防除などを実技や講義などを通して一年間学習します。



農業塾研修場



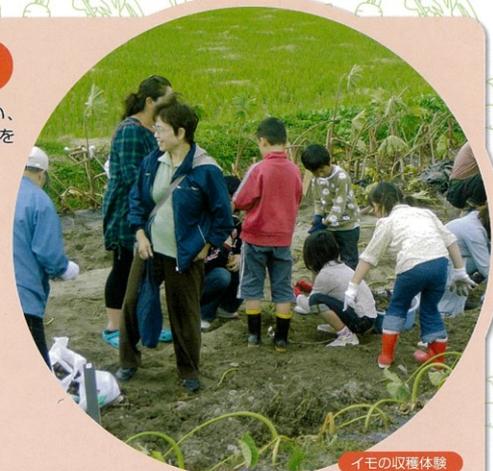
研修室での講義

ふれあい体験

一般市民の方に、気軽に農業にふれあい、理解を深めてもらおうと、各種体験事業を開催しています。

- 野菜・果樹等の栽培教室
- イモの収穫体験 及び 収穫祭
- コンニャク作り体験
- 味噌作り体験
- 市民向け野菜栽培相談

各体験事業のいくつかは、地元農家で組織する「春日野菜研究会」の皆さんの協力により開催しています。



イモの収穫体験



講習会



味噌作り体験

施設概要



バイオ研究施設

- 建設年度 / 平成5年度
- 施設規模 / 敷地面積 3,780㎡・研究棟 402.06㎡
(事務室・準備室・培養作業室・培養室4室・研修室・資料閲覧室等)
作業管理棟 103.68㎡・試験用栽培温室 367.07㎡
ボイラー室 7.29㎡
- 建設事業費 / 278,681千円
- 補助事業名 / 先進的農業生産総合推進対策事業



育苗施設・持続型農業開発施設

- 建設年度 / 平成12～13年度
- 施設規模 / 敷地面積 3,354㎡・培養管理棟 419.13㎡
順化作業室 139.83㎡・育苗温室2棟 802.17㎡
培土置き場 28.90㎡・倉庫 13.87㎡
- 建設事業費 / 310,409千円
- 補助事業名 / 経営構造対策事業

② 都市農業の担い手の育成及び確保

農業塾

岡崎市主催
農業塾
有機農業塾 (R6.9新規開設)

JAあいち三河主催
第1 農業塾
第2 農業塾
いちご塾
なす塾
じねんじょ塾



農業やってみませんか？

農務課 ☎46・4490 FAX46・4465

有機農業塾生募集

日時 9月～令和7年8月の隔週水曜日 9時～12時
場所 農業支援センター、有機農業モデルほ場
内容 有機野菜栽培についての講義、栽培実習
定員 15人
費用 30,000円
申込 7月31日(火)までに電子申請届出システムで。詳しくは、市ホームページで。



NPOおかざぎ農産会の皆さんがサポートしてくださいます

JAあいち三河
新規就農者 応援します！
なす 農家に なりませんか？
岡崎市・幸田町で

JAあいち三河
新規就農者 応援します！
いちご 農家に なりませんか？
岡崎市・幸田町で

応募資格
1. 満18歳以上で研修終了後、JAあいち三河管内でいちご生産者として、就業意志が明確な方
2. 就農時は、岡崎市いちご部会・幸田町いちご組合に加入する
3. 研修時は、通年でいちご生産拠点農場と研修先農場に通えること
※住居の紹介は行いが費用・生活費は自己負担

募集人数
年間3名程度
※応募者の中から、書類選考・短期実習・面接審査にて決定

研修場所
JAあいち三河いちご生産拠点農場 (岡崎市)
いちご生産者ほ場 (岡崎市・幸田町)

研修期間
6月から翌々年5月まで(2年コース)
農業経験に応じて1年の農業研修コースもあり。

新規就農者を募集しています

応募方法
所定の書類に必要事項を記載し、新規就農サポートセンターまでメールか郵便で送付いただくか、窓口までご持参ください。
※直接持参の場合は、9時から17時まで
(1)所定の研修受講申込書
(2)所定の履歴書
(1)(2)の提出書類については、ホームページからダウンロードするか、お問い合わせください

募集期間
6月1日より受付開始
いちご生産拠点農場研修から始める2年コースは9月末日までにお申し込みください。
※農業経験に応じた1年コースは別枠で受け付けています。

事前相談
新規就農サポートセンターで随時受付

研修費用無料

JAのいちご生産拠点農場での基礎研修と先進農家での実務研修があります
研修中から、農地やハウスの確保など、就農に向けた準備をサポートします
就農後も、JAと岡崎市いちご部会・幸田町いちご組合により、栽培技術や経営のバックアップをします

新規就農サポートセンターといちご生産拠点農場は行政機関(県や市町)、その他関係機関と連携し、地域全体でガッチリサポートします！



JAあいち三河本店経済センター
お問い合せ先 応募先
営農企画部 企画指導課 (担当：野田)
新規就農サポートセンター
〒444-0213 岡崎市坂左右町字庫ノ部1-1
まずはお問い合わせください！
TEL.0564-55-2994
URL <http://www.ja-aichimikawa.or.jp>

② 都市農業の担い手の育成及び確保

農福連携

**「お試しノウフク(岡崎市)」
に取り組みたい農業者を募集します！**

「お試しノウフク(岡崎市)」とは？

農福連携に取り組んでみたいけど、できるかな…、初めてだからお試しでやってみたい…
という岡崎市農業者の方に、試行的に農福連携にかかる費用（※障がい者就労施設へ農作業委託にかかる費用）の一部を補助します。

1. 補助対象者

- 以下の要件を全て満たす農業者の方
- (1) 岡崎市内に居住及び農地を有する農業者の方。
 - (2) 岡崎市内障がい者就労施設に農作業を委託したことがないこと。
 - (3) 農福連携の実施を今後も検討していること。



2. 補助対象となる事業内容及び金額

農作業委託で障がい者就労施設へ支払う工賃及び交通費（障がい者及び指導員分）
補助上限金額 5万円（※）消費税課税事業者の場合は、対象事業費の税抜が補助対象額となります。
【期間】 2～5日分
【人数】 4人程度/日（※）日数や人数は、障がい者就労施設との調整により決定します。

3. 申請受付期間

令和6年5月1日（水）～令和7年2月28日（金）（先着順）
 （※事業実施期間は、事業選定日から令和7年3月7日（金）まで）
 （※予算の都合上、終了時期を早める場合がありますので、ご了承ください。）

4. 申請書等提出先

JAあいち三河本店 営農企画部 営農企画課
 〒444-0213 岡崎市坂左右町葦ノ部 18-1 TEL 0564-55-2994

【お問い合わせ先】

岡崎市農福連携相談窓口
 岡崎市役所 経済振興部 農務課
 〒444-8601 岡崎市十王町2丁目9番地 TEL 0564-23-6201
 JAあいち三河本店 営農企画部 営農企画課
 〒444-0213 岡崎市坂左右町葦ノ部 18-1 TEL 0564-55-2994

農福連携相談	件数	相談者別内訳		相談種別内訳	
		(農業者)	(福祉事業所)	(マッチング相談)	(その他)
R3	4件	(1件)	(3件)	(1件)	(3件)
R4	19件	(12件)	(7件)	(12件)	(7件)
R5	15件	(11件)	(4件)	(9件)	(6件)
R6.6現在	3件	(0件)	(3件)	(1件)	(2件)



【農福連携相談窓口】
令和3年3月1日に農務課とJAあいち三河営農企画課に設置



苗の運搬作業



ブルーベリーの摘み取り作業



ぶどうの笠かけ等の作業

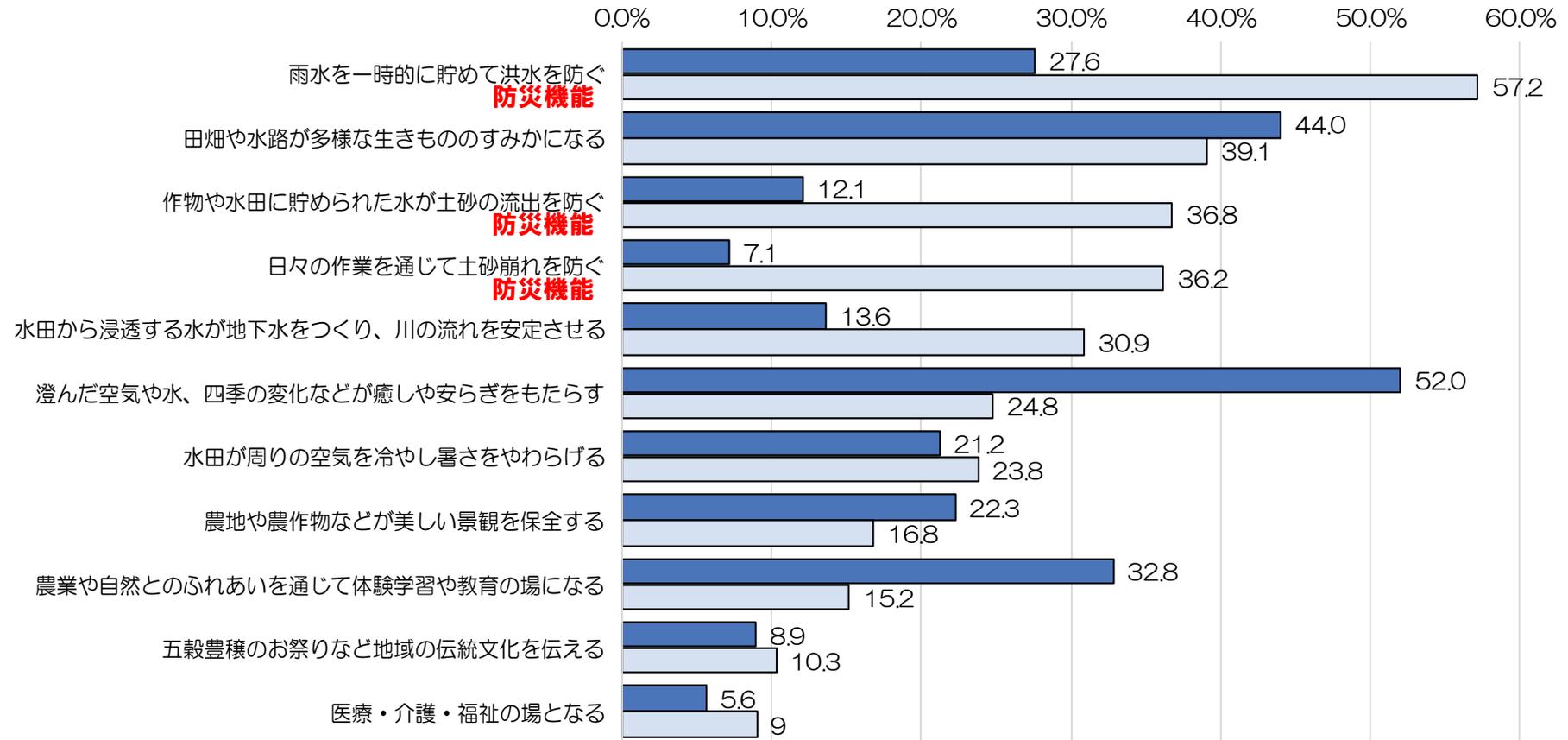


栗拾い体験イベント補助

③ 都市農業が有する多様な機能の発揮

R1市民意識等実態調査結果

農業・農村のもつ多面的機能のなかで、特に重要だと思う役割
(特に重要なもの3つまで選択)



■ 岡崎市市民アンケート (N=786)

□ 農業・農村の多面的機能及び棚田に関する意向調査 (N=1,102) ※

※令和元年度 食料・農林水産業・農山漁村に関する意向調査 (農林水産省)
(<https://www.maff.go.jp/j/finding/mind/attach/pdf/index-15.pdf>)

⑤ 都市農業により生産された農林産物の地元における消費の促進

学校給食での取組み

○米飯類

白飯：岡崎市産100%、小麦：一部愛知県産、岡崎市産

○青果物・その他

学校給食センター・農務課・給食協会・市場・生産者・JAで
会議を行い県内・市内産野菜の出荷時期や出荷量を確認

○牛乳：愛知県産

【産地別食材購入割合実績】

(金額ベース：%)

産地	R3	R4	R5
愛知県	55.26	54.85	54.98
(内岡崎市)	(18.82)	(18.02)	(17.74)

全国平均55.4% 愛知県53.1%

⑤ 都市農業により生産された農林産物の地元における消費の促進

課題(地場産物調達難しさ)

野菜	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ニンジン								種まき	生育中		収穫	
春ジャガイモ			定植	生育中		収穫		保存				
秋ジャガイモ								定植		生育中		収穫
タマネギ	生育中				収穫	保存						

岡崎市 山田農園提供



産地リレーへの理解

みんな地元の農産物もいっぱい食べてね!

地産地消にはメリットがいっぱい!

- 新鮮な農産物が食べられる
- 生産者の顔が見えやすいため、安心して安全な食の選択につながる
- 流通コスト(輸送費用)が削減できるので、価格が安くなる
- 本来の「旬」の味を知ることができる

5 都市農業により生産された農林産物の地元における消費の促進

市内産有機にんじんを使用した給食

- 市内産有機にんじん：有機JAS認証
- 提供献立：のっぺい汁
- 提供人数及び使用量



学校給食センター	提供日 (令和5年)	提供食数	にんじん使用量(kg)		
			小学校	中学校	合計
東部	12/4	10,862食	76	55	131
北部	12/6	8,909食	65	43	108
西部	12/7	7,816食	61	32	93
南部	12/8	6,999食	54	30	84
合計	—	34,586食	256	160	416

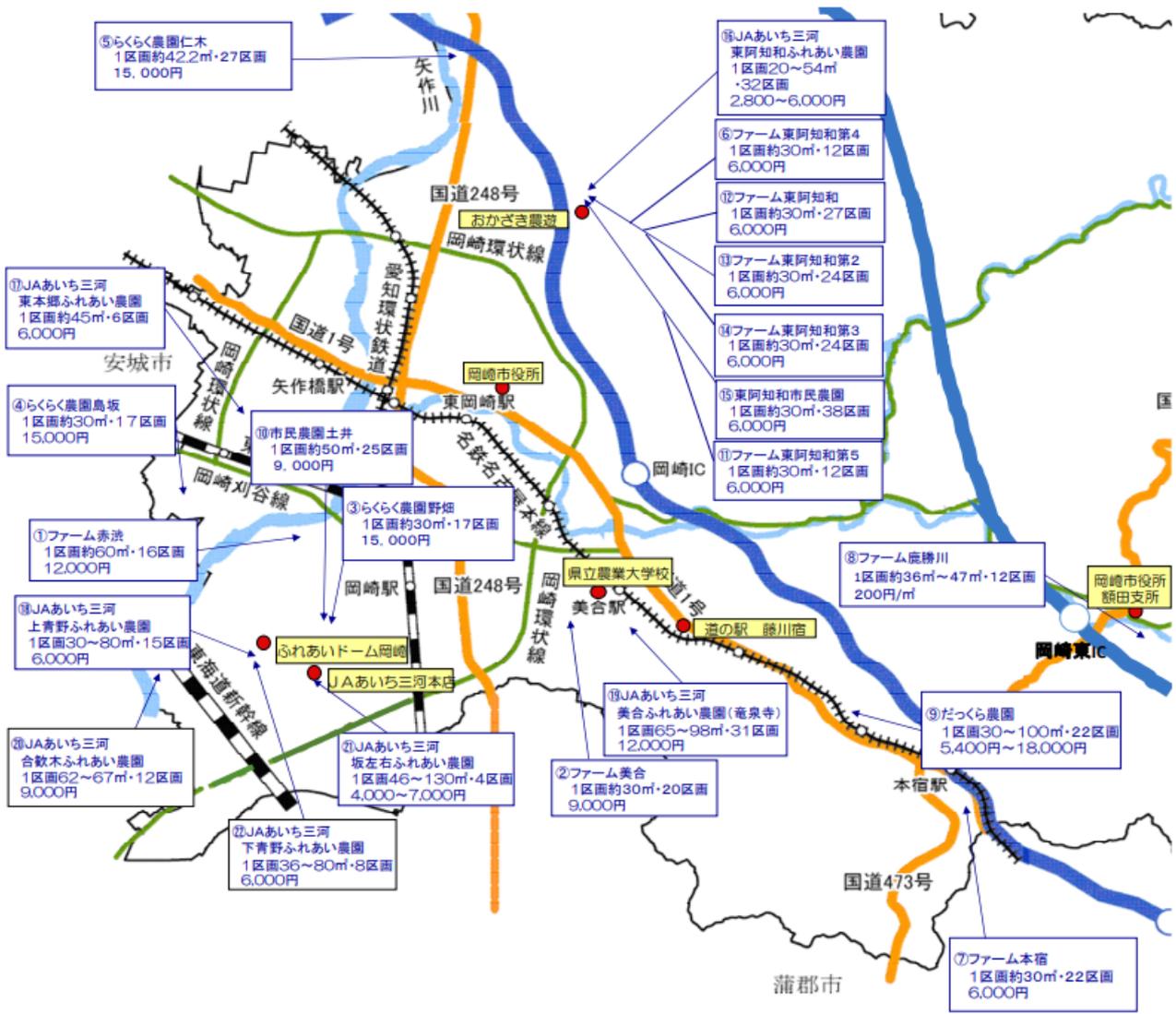
○関係者

【市役所】 学校給食センター、農務課、保健所

【その他】 給食協会（調理事業者）、生産者、市場、小中学校

⑥ 農作業を体験することができる環境の整備

市民農園の設置推進



【現状】
慣行：28農園501区画
有機：ゼロ

【将来計画】
慣行：1,000区画
有機：200区画

【農業支援センター】
市民農園の拠点化

↓
菜園都市岡崎
オーガニックシティおかざき

⑥ 農作業を体験することができる環境の整備

JAグループ愛知共同企画 【岡崎市後援】

親子で育てるあいち米
おこ×実らせ隊2024
 黄金の収穫祭

家族の思い出づくり。
 稲刈り体験で！

参加隊員
 大募集！

食育についてお勉強
 “食育教室”

親子で力を合わせて
 “稲刈り体験”

みんなでパチリ！

抽選で親子計15組を「黄金の収穫祭」にご招待！

私たちは、いいともあいち運動(地産地消)を推進しています！
 「いいともあいち」とは
市内の消費額と生産者が今年で以上に「いいとも」獲得に
 Eatmore Aichi products(イート・モア・アイチ・プロダクト)
 ーもっと愛知産品を食しよう(利用しよう)

JAグループ愛知

このイベントは、公益財団法人愛知産地振興基金の協力を得て行われています。

地元スーパーとの包括連携協定「農業振興に関すること」(R6.7.4)



おかざき農遊館

サツマイモ
収穫体験イベント開催！

【10月28日(土) 9:30・10:00】

募集人数	40組(1家族1組限り)
参加費	1組300円(税込)1組3株まで
時間	第1回9:30～ 第2回10:00～
場所	おかざき農遊館内畑

ご参加お待ちしております！

ja_aichimikawa

産直店舗「おかざき農遊館」内にある圃場で秋の味覚 サツマイモ収穫体験

自然薯は粘りと甘味が強いことを特徴としており、岡崎市のブランド化推進品目に指定されているほか、愛知県から岡崎市の地域産業資源としても認定されています。

岡崎市の自然薯は主に市内北部や東部等で特産物として栽培されており、出荷時期は11月初旬～翌年2月頃となっております。岡崎市の自然薯の普及及び消費拡大に努めることを目的としてじねんじょ手掘り体験を開催。

⑦ 学校教育における農作業の体験の機会の充実

花育推進事業



岡崎市花き温室園芸組合が市内小学校で花きの管理の仕方や愛知県が花き生産量1位という内容を児童に説明します。

※令和6年度は岡崎市内5校の小学校で開催されました。
それぞれの学校に観葉植物 10鉢と花苗40ポットがプレゼントされました。

⑦ 学校教育における農作業の体験の機会の充実

有機バケツ稲づくり



食育活動の一環として、岡崎市内にある小学校・聾学校・盲学校14校(約850人)と有機肥料を使ったバケツ稲の栽培に今年から初めて取組みます。

岡崎市が地域ぐるみで有機農業に取り組む「オーガニックビレッジ」を言したことに伴い、幅広く有機による循環型農業について体験することが目的。

岡崎市、NPO法人おかげき農遊会と連携し、5月中旬から各小学校に出向き土作り、田植え、稲刈り、脱穀・精米のサポートを続けます。

⑦ 学校教育における農作業の体験の機会の充実

郷土料理や郷土に関連した給食メニューの提供 【啓発資料】

給食レシピ 令和5年11月（小学校4年生社会科 きょう土の伝統・文化の先人たち）
 食べて学ぼう

煮みそ

煮物

学びのポイント
 郷土料理
 （小学校4年生社会科 きょう土の伝統・文化の先人たち）

煮みそは西三河の郷土料理の一つで、大根やにんじんなど季節の野菜を、だし汁、みそを入れて煮込んだ家庭料理です。みそには、八丁みそなどの豆みそが使われます。八丁みそは、濃厚なコクとほのかな酸味・渋みがあり、うま味が多いのが特徴で、郷土の偉人、徳川家康公も好んで食べたといわれています。味が奥にしみ込んで煮みそは、ごはんにぴったりのおかずです。冬は温かい煮みそを食べて、体を温めましょう。



【材料／4人分（おと男）】

- 豚小間切肉.....90g
- さつまいも.....1枚（45g）
- にんじん.....中1/2本（80g）
- だいこん.....中2〜3個（100g）
- 里芋.....中3個（200g）
- 板こんにゃく.....1/5枚（65g）
- 白菜.....1枚（80g）
- 味噌ぎ.....1本（25g）
- だし汁（かつおやこんぶなど）.....200ml
- 八丁みそ.....大さじ2（35g）
- 砂糖.....大さじ1（9g）

【作り方】

- ① 材料の下ごしらえをする。
 - ・にんじんとだいこんの皮をむき、5mm幅の半月切りやいちよう切りにする。里芋は皮をむき、一口大に切る。白菜は2cm、味噌ぎは小切りにする。
 - ・板こんにゃくを1/3幅で5mmの厚さに切り、下ゆりする。さつまいもは1cm幅に切る。
 - ・八丁みそを少量の湯で溶く。
- ② 鍋を火にかけて豚肉をいため、火が通ったら、にんじん、だいこん、里芋、こんにゃくを加えていため、だし汁を入れて煮る。
- ③ 野菜に火が通ったら、②に溶いた八丁みそと砂糖を加え、さらに煮る。
- ④ ③にさつまいも、白菜を入れて煮る。
- ⑤ ④に味噌ぎを入れて、軽く火が通ったら出来上がり。

【1人当たりの栄養価：エネルギー 142kcal たんぱく質 8.8g】

岡崎市学校給食センター

みんなで食べよう!! 家康公メニュー

令和6年度「家康公メニュー」第1弾です！

今年度は岡崎市の「もっと家康公」どまんなかプロジェクトの一環として、給食では家康公メニューを提供します。家康公が好んで食べていたとされる食材を使った給食です。家康公のような長寿で健康な体を作っていきましょう！

れんごんのきんぴら

家康公は、徳川家の初代当主である「孫頼れんごん」を尊んで食べていたそうです。れんごんと山芋をすり潰し、こねてあげてとろろ餅のようによく蒸し返そりです。今回の給食では、れんごんを甘辛く味を付けたきんぴらとして登場します。

八丁みそヒレカツ

岡崎市生まれの八丁みそを使った「みそだれ」をヒレカツに付けて食べます。家康公の病を癒す薬と噂っ子のみなさんは、これで元気もりもりですね！

八丁みそまんじゅう

家康公と同じ岡崎市生まれの八丁みそを使ったまんじゅうです。

三橋五蔵みそ汁

「根を食べる野菜」3種類と「葉を食べる野菜」5種類使い、八丁みそでほろけた栄養たっぷりのみそ汁です。家康公は、赤みそや八丁みそなどの大豆から作られる豆みそを好んで食べていたといわれています。夏和漢のみそ汁に豆みそが多いのは、家康公が嗜んでいたともいわれています。

麦ごはん

麦ごはんは、ビタミンや無機質が豊富です。家康公は、健康に過ごすために麦ごはんを好んで食べていたそうです。

岡崎生まれのブランド鶏 岡崎おうはんが給食メニューに登場!

令和5年1月 岡崎市の学校給食で岡崎おうはんの鶏肉が「五目うどん」で提供されます。みんな楽しみにしています。

岡崎おうはんってどんな鶏?

お肉がおいしい鶏と、卵をよく産む鶏を掛け合わせて開発されました。

- お肉がおいしい鶏: 徳川プライムスロウ鶏
- 卵をよく産む鶏: ロードアイランドレッド鶏

2008年に、独立行政法人 農業改良センター 岡崎牧場（旧大井町）で誕生しました。羽の模様は黒と白のしま模様で、サイズは一般的な鶏と比べて大きいです。

ここがスゴい!
 岡崎おうはんは、産卵の3割の消費をかけたじっくりと丁寧に育てられています。

産卵の量	およそ45日
産卵おうはん	120円~140円

力があり、しっかりとしたかみゆえかめばかむほどおいしい・生臭さがない

岡崎おうはんの特長

- 甘味とコクが感じられる
- 黄身が大きい
- 卵の色は茶色

0: 岡崎おうはんの「ヒナ」は何色?
 ●黒と白のしま模様 ●茶色 ●黒 ●黄 ●黄白

岡崎おうはんブランド推進委員会（事務局：岡崎市役所農務課内）TEL: 0564-46-4490

郷土料理「煮みそ」

家康公メニュー

ブランド鶏「岡崎おうはん」

⑦ 学校教育における農作業の体験の機会の充実

市内産有機にんじん提供に関する食育

おかざき健康・食育だより

まめ吉通信

2023 秋号

岡崎市産有機にんじんが 学校給食に登場するよ

今回のまめ吉通信は、岡崎市農林産物ブランド化推進マスコットキャラクターのオカボーお兄さんが「有機にんじん」について紹介してくれるよ。

これはにんじん畑だよ。みんな見たことあるかな？

にんじんの葉っぱはこんな形をしているよ。

ぼくは見たことあるよ。土の中にたくさんにんじんができていよね。



- おかざき健康・食育だより「まめ吉通信」による特集
- 栄養教諭による食育指導
- 給食時間の放送で市内産有機にんじんを紹介

⑧ 市民の理解と関心の増進

農業者の高齢化・耕作放棄地の増加(市内農地の約35% 約460ha)



CO2ゼロエミッション化、持続可能な農業、付加価値向上、地域のイメージアップ

期待される効果

社会

**国民の豊かな食生活
地域の雇用・所得増大**



- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

経済

持続的な産業基盤の構築



- ・輸入から国内生産への転換(肥料・飼料・原料調達)
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

環境

**将来にわたり安心して
暮らせる地球環境の継承**



- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

オーガニックシティ おかざき

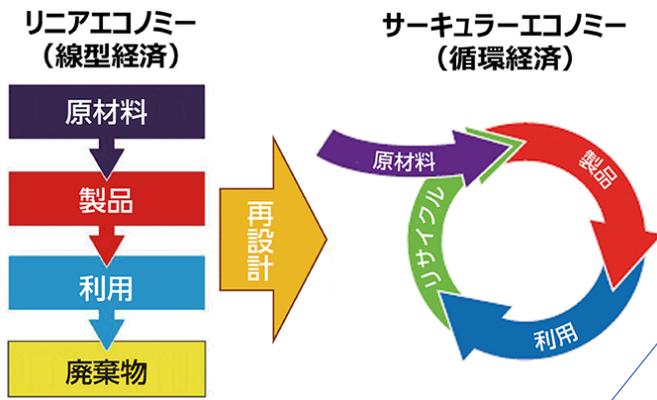
家康公生誕の地として、江戸のまちのシステムを活かした有機農業産地づくりを目指し
食・環境・産業の好循環を実現します

(出典：農林水産省)

⑧ 市民の理解と関心の増進

家康公生誕の地として、江戸のまちのシステムを活かした有機農業産地づくりを目指し、食・環境・産業の好循環を実現

- 地域での活動を中心とした循環型の社会
- 持続可能な社会:低炭素 自然共生
with家康公after大河



持続可能な
フードシステ
ムの構築

フード(Food)



ケア(Care)

地域福祉の展開
農福連携

有機農業産地づくり
持続可能な農業

エネルギー
(Energy)

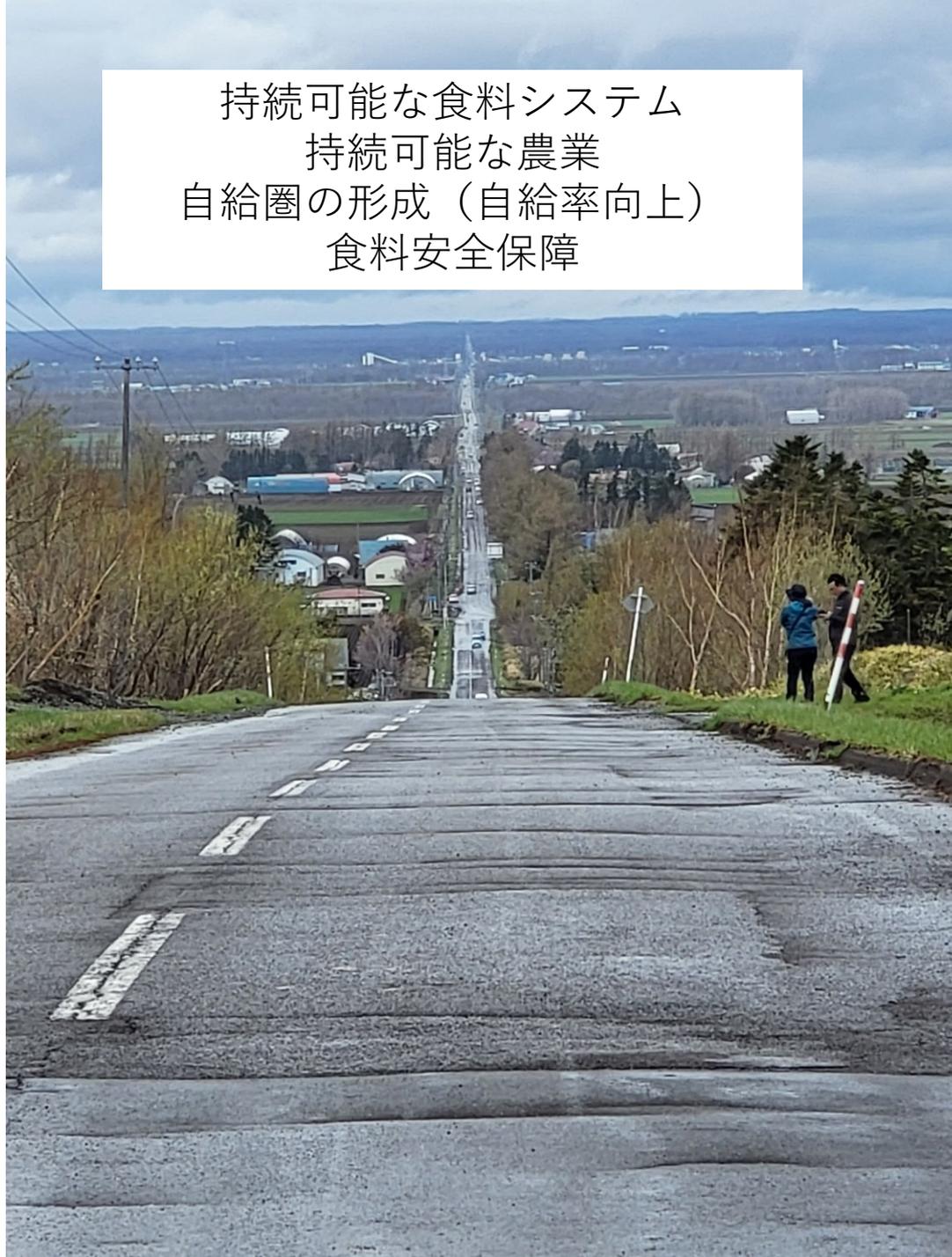
再生エネル
ギーの普及



水源地の農地
を守り、市全
体として、農業
の有する多
面的機能の維
持・発揮を
図る。

(FECとは、経済評論家の故内橋克人氏が提言した構想)

持続可能な食料システム
持続可能な農業
自給圏の形成（自給率向上）
食料安全保障



(天に続く道)